

# やめよ! 徳山ダム

徳山ダム建設中止を求める会通信  
No.79 (2008.10.8)  
事務局 TEL/FAX 0584-78-4119  
大垣市田町1-20-1 近藤方

## 水資源機構木曾川水系連絡導水路建設所はできちゃったけど… 揺れ動く計画、それも予算は消化されていく

木曾川水系連絡導水路事業は、9月4日に水資源機構に承継され、水資源機構中部支社内に「木曾川水系連絡導水路建設所」が設置されました。国交省中部地整は繰り返し「説明責任を果たす」と口では言いますが、実際には真っ当な説明はありません。6月29日にたくさん出された流域住民や研究者からの厳しい質問や意見に対しては、2ヶ月も経ってから表面的な「回答」をHPに載せただけ（それも岐阜県の対応に関して間違った記述があつて、長良川市民学習会が岐阜県を追及し（08.09.02）、それを受けて岐阜県から出された訂正要求によって、訂正&お詫びをするという失態）。

また、この「回答」には、「長良川への常時放流はやめる方向で検討しているのか？」と読めないでもない記述があります。流域住民の厳しい声によって、長良川に徳山ダムの水を流す「木曾川水系連絡導水路上流分割案」は揺れ動いています。しかし、岐阜県も中部地整も「具体的な運用方法は、施設の完成の目処が立ってから決める」と言います。「使い方」をはっきりさせないまま（クローズドな場での厳しい指摘や意見には、その場しのぎの誤魔化し説明で逃げながら）、施設建設工事だけは進めていく…まさに「建設」ありき、です。

10/15 長良川市民学習会（第4回）市民シンポジウム

### 「長良川の魚たちは、いま？」

と き：2008年10月15日（水） PM 6:30~8:45

ところ：ハートフルスクエアG 大研修室（JR岐阜駅2F東詰）

基調講演 古屋 康則 岐阜大学教育学部准教授（魚類の生殖生理生態学）

シンポジウム 導水路は、環境改善になるのか？

コーディネーター 粕谷 志郎 長良川市民学習会代表/岐阜大学教授

パネラー 村上 哲生 名古屋女子大学教授（陸水学）・淀川水系流域委員会委員

向井 貴彦 岐阜大学准教授（魚類生態学）

古屋 康則 岐阜大学准教授

庄司 幸彦 長良川中央漁協理事（増殖委員長）

【主催：「長良川に徳山ダムの水はいらない」市民学習会実行委員会】

連絡先：090-1284-1298 ホームページ <http://dousui.org/>

### 皆様に感謝！長良川に徳山ダムの水はいらない 請願署名 23,489筆を提出

9月24日に岐阜県議会に提出しました。なおも600筆以上が届いています。紹介議員は、大須賀しずか議員（共産党）、太田まさひさ議員（民主党）の2名です。岐阜県議会は自民党が圧倒的多数です。今回は、真っ当な議論もなく「不採択」となるでしょう。が、この署名数は、県議会に対する強いインパクトを与えたことは疑いありません。

声明（抜粋）

## 木曾川水系連絡導水路の「札付き」水資源機構への事業承継 ～「治水」予算をまずは人の命を守るためにこそ～

2008年9月4日

徳山ダム建設中止を求める会（代表 上田武夫）

木曾川水系連絡導水路事業を水資源機構事業にするという方針は、6月3日の木曾川水系水資源開発基本計画の一部変更の閣議決定によって、「法的」には整った（逆に、この時点までは法的根拠なしに水資源機構に予算をつけていたのである（中略））。

徳山ダムも水資源機構（旧水資源開発公団）事業であった。公団→機構は、「（国交省の指示通りに）早期に事業を完成させる」ことを最優先とし、そのためには手段を選ばない事業体である。（中略）「悪辣なことをには直接自らが手を染めずに済ませる」ために国交省河川局が操る事業体なのである。それによって、旧徳山村の人々は辛酸を嘗めさせられ、今も「問題」は解決していない。（中略）

今般、国交省は地元にもろくな説明もせず、（自ら約束したはずの）意見交換もしないまま、事業を水資源機構に承継させることで、自らの責任を逃れようとする一方、「事業を進めるしか能がない」水資源機構事業とすることで、既成事実化→後戻りできない？→を進めようとしている。これは1997年河川法改正の趣旨を、河川法を所管する国交省が真正面から否定するやり方であり、責任逃れもある。

ここ1週間ほどの短期間に、国交省中部地整管内の河川で、大きな水害被害が多発した。「治水」予算を目的不明な事業（「河川環境改善」を目的に掲げながら、河川環境悪化への懸念によって多額の調査費をかけて調査しなければならない、という摩訶不思議な事業）に投入している場合ではない。

国交省に対しては、「河川について、洪水、高潮等による災害の発生が防止され、（中略）、もって公共の安全を保持し、かつ、公共の福祉を増進すること」（河川法第一条）という河川管理者としての責務を真に全うすることを、再度、強く要求する。

地元には十分な説明がない  
住民団体が声明  
木曾川水系連絡導水路事業が国土交通省から水資源機構に承継されたことを受け、住民団体「徳山ダム建設中止を求める会」（上田武夫代表）は4日、「地元には十分な説明もないまま承継し、既成事実化を進めている」などと批判する声明を出した。  
八月下旬から同省中部地方整備局管内で水害が相次いでいることを挙げ、「治水予算を目的不明な事業に投入している場合ではない」とも訴えている。

08.09.05  
岐阜新聞

### <不透明すぎる「上流分割案」決定過程>

木曾川水系連絡導水路に関する下の質問主意書一答弁書の<「河川環境被害の軽減効果の具体的予測及び当該事業の必要性・妥当性」についても、具体的に検討する>会議は、昨年8月22日の「徳山ダムに係る導水路検討会【第七回】」だとのこと。なのに、この重要な会議（及びその会議に至る打ち合わせ会議）関係文書は、HPに公表した「議事要旨」「説明資料」「参考資料」で全部だ、他にはない、と言い張っています（情報公開請求に対して非公開決定＝理由は「不存在」）。そして議事要旨に基づく関係行政機関の説明はバラバラ→名古屋市や愛知県は「下流施設」を利用しての長良川河口堰取水が可能になった」と言い、岐阜県は「下流施設」付近は岐阜県内であるからそのようなことは認められない」と言う。これで「説明責任を果たす」とは？国交省河川官僚自らが書いた質問主意書答弁書の中味も行方不明にさせてしまうやり方は余りにも酷い。この不透明さに対して、アクションを起こしていく予定です。

### 378 徳山ダムに係る木曾川連絡導水路事業の目的と効果に関する質問主意書&答弁書(166国会)

【質問】 二の(三) 1994年の渇水の際の木曾川での河川環境被害が、徳山ダムから緊急水20m<sup>3</sup>/秒を補給することで、どのような被害軽減効果があるのか。(中略) / (四) 前述を踏まえ、緊急水(20m<sup>3</sup>/秒)を導水した場合、1994年規模渇水における木曾川での河川環境被害の軽減効果の具体的な予測及び

当事業の必要性・妥当性を根拠をもって説明されたい。

【回答】二の(三)及び(四)について

(前略) これらの調査等※の結果を踏まえ、今後、お尋ねの「河川環境被害の軽減効果の具体的予測及び当該事業の必要性・妥当性」についても、具体的に検討することとしている。(後略)

※【平成十八年度及び平成十九年度の予算において措置された木曾川水系連絡導水路事業に係る調査費により、調査等、調査等を行っているところである】を指す。

## ☆ 9月2日西濃豪雨で徳山ダムは役だった？！

9月2-3日は、揖斐川流域に局地的な豪雨がありました。国交省中部地整と水資源機構中部支社は以下のように「徳山ダムの洪水調節機能のおかげだ」と大宣伝しています。

### (1) 08年9月4日 中部地整&水資源機構中部支社発表より

#### 1. 件名

横山・徳山ダム連携による初めての洪水調節を行いました。(速報)

#### 2. 概要

平成20年9月2日から3日にかけて、岐阜県西濃地域は激しい降雨に見舞われ、徳山ダム(河口から約90km)では、最大毎秒約740m<sup>3</sup>の流入量全量を貯留しました。また、横山ダム(河口から約80km)では、最大毎秒約690m<sup>3</sup>の流入量があり、このうち毎秒約400m<sup>3</sup>を貯留し、毎秒約290m<sup>3</sup>を放流しました。

この洪水調節により、徳山ダムがなかった場合の操作に比べ、揖斐川の水位低下効果は、大垣市万石地点(河口から40.6km)で約1.2m、養老町今尾地点(河口から約27.0km)で約0.7mと試算されました。

また、徳山ダムの完成による揖斐川本川と流入支川の水位低下、支川牧田川、杭瀬川の河道拡幅工事に併せ、支川大谷川の洗堰を1.05mかさ上げしており、今回の出水では、越流水位(TP8.85m)に迫るTP8.47mまで水位上昇したものの越流は回避でき、浸水被害は発生しませんでした。(岐阜県河川課が9月4日別途記者発表)

(2) 速報版 平成20年9月5日 [平成20年9月2日~3日 西濃豪雨による揖斐川流域出水状況(第一報) 中部地整木曾川上流河川事務所p1より(次頁:カラーで示せなくて残念!)]

主要な地点の降水量

木曾川水系総雨量分布図 平成20年9月2日~3日

河川名	雨量観測所	総雨量(mm)	時間最大(mm/h)
揖斐川	藤橋	369	112
	● 杉原	466	94
牧田川	● 下山	524	65
杭瀬川	● 赤坂	149	50
	● 谷	388	70

観測所は中部地方整備局所管内  
観測値は速報値  
(9月2日降り始め~9月3日9時)



揖斐川町の揖斐川支流で河川氾濫というより土砂災害（復旧費用は「砂防費」）がありましたが、数日前（8月末）の、尾張・三河の豪雨に比べると被害が小さかったので、全国的にはほとんど話題になりませんでした。

時間降雨も総降雨量も相当に多かったのは事実です。同時にこれだけの豪雨が、かくも「揖斐川本川及び右岸地域」に限定的して降る、ということは確率的には極めて低い。「揖斐川の水位低下効果は、大垣市万石地点(河口から 40.6km)で約1.2m」という試算の信憑性には疑義があります。しかし流域で暮らす者にとって重要なことは、この値の正否より「仮にこの豪雨が地域的に少しでもずれていたら大災害だった」ことです。本川最上流部に巨費を投じて巨大ダムを造るのは「洪水対策としては最愚策」であるということを変更して示した。それが荒崎水害訴訟にも関わっている揖斐川流域住民としての実感です。

**11月2～3日**

**設楽ダム中止全国集会 & 水源連総会に是非ご参加を！**

**「設楽ダムの建設を止め、みどりの流域圏づくりをめざす全国集会」**

- 11月2日 10:20 飯田線豊川駅東口集合  
10:30～14:30 設楽ダム予定地視察（マイクロバス）  
15:00～18:00 全国集会（新城観光ホテル）  
18:15～20:00 懇親会・夕食（新城観光ホテル）
- 11月3日 9:00～13:00 水源連総会  
午後 オプションツアー（豊川用水、豊川下流域、豊橋へ）
- 11月4日 午前 中部地方整備局へ申し入れ（名古屋）

新城観光ホテル 〒441-1329 愛知県新城市字笠岩 11 番地 1  
TEL.0536-22-1234 FAX.0536-23-3123

連絡先： 設楽ダム全国集会・現地実行委員会事務局（奥宮）  
TEL/FAX 0532-54-7305 Email [okumiya@sala.or.jp](mailto:okumiya@sala.or.jp)

◇ 恒例：徳山村キャンプ <8月23日(土)～24日(日)>は雨のため中止しました  
強雨（出発時に強雨・予報も強雨）により中止としました、残念です。キャンプ予定地自体は、まず冠水はしない場所です。「来年も、再来年もやるぞ！恒例：徳山村キャンプ！」

**<「徳山ダム建設中止を求める会」運営委員会から>**

新しいHPのURLは以下です。開設しました。主に「資料倉庫」としての役割をもたせていますが、この「やめよ！徳山ダム」もHPで読めるようにします。

<http://www.tokuyamadam-chushi.net>

なお、旧「徳山ダム建設中止を求める会・事務局」HPはサイトアドレスを  
<http://webage.jp/tokuyama/> に変えて存在しています。

**「やめよ！徳山ダム」 徳山ダム建設中止を求める会 代表：上田武夫**

編集責任：近藤ゆり子 事務局 〒503-0875 大垣市田町1-20-1  
TEL/FAX 0584-78-4119 Email : [k-yuriko@octn.jp](mailto:k-yuriko@octn.jp)  
郵便振替：00800-7-31632 年会費 2000円

# 豪雨、50万世帯 避難勧告



岡崎市の中心部を流れる木曾川が、29日午後5時過ぎに暴雨で氾濫し、市内の住宅地を浸水させた。浸水した住宅は約1000戸に達し、約50万世帯が避難を要した。また、市内の主要道路も浸水し、交通が寸断された。消防当局は、浸水した住宅から住民を救出する作業を進めている。また、市内の主要道路も浸水し、交通が寸断された。消防当局は、浸水した住宅から住民を救出する作業を進めている。

豪雨で氾濫した住宅地と田圃。29日午前7時、愛知県岡崎市岡崎町で、木曾川「わかづり」から(内山田正典撮影)

## 説明責任を果たすまで着工しないよう求める市民団体のメンバーら



**説明責任求める要請書**  
徳山ダム導水路計画で市民団体  
中部地域に  
市民団体「長良川に徳山ダムの水は要らない」市民学舎実行委員会(粕谷志郎代表)は22日、徳山ダムの水を木曾川下流域へ送る導水路計画について、岐阜、愛知、三重3県と名古屋市の住民に十分な説明責任を果たすまで着工しないことを求める要請書を中部地方整備局(中部地域)に提出した。中部地域の福田雄也流域、水防調査官は「決して住民を置き去りにして着工してはならない。環境への影響を一定。【鈴木敏子】

## 木曾川導水路の早期建設要請

**県の求めで国交省HP修正**  
徳山ダムの水を長良川や木曾川に流す木曾川水系導水路事業をめぐり、国土交通省中部地方整備局木曾川上流河川事務所がホームページ(HP)で「県から導水路の早期建設に関する要請を受けている」と記載していた。県は「そのような事実はない」と修正を求め、整備局は「県から導水路の新規事業採択に關する要請を受けている」と記載を改めた。  
問題の記載は、6月に岐阜県市民会館であった市民対象の説明会で、同僚に対して同河川事務所の担当者、河川の状況がわかっていない。整備局河川課は「県から導水路事業の採択を求め、整備局は「県から導水路の新規事業採択に關する要請を受けている」と記載を改めた。【鈴木敏子】

「県から導水路の新規事業採択に關する要請を受けている」と記載を改めた。【鈴木敏子】

# 街のみ込む濁流



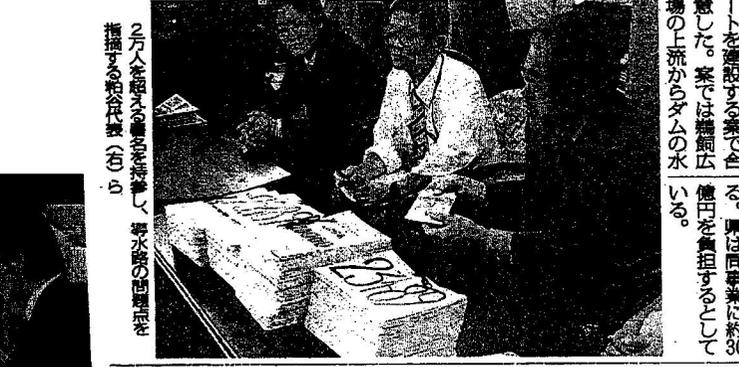
豪雨の岡崎  
**橋えぐられ車沈む**  
住民ら命からがら避難  
泥水屋根まで 死亡女性 宅の付近

これに対し、実行委員は「住民への説明が不十分で、事業の必要性にも疑問が残る」と指摘。同意撤回を求める署名集めを今年7月中旬に始め、これまでに2万3489人分が集まった。粕谷代表は「県内外から予想を超える署名が集まり、全国的に関心が高い。ダムの水を放流すれば長良川の水質悪化や生態系への影響が心配。水害対策を優先させるべきだ」と主張。「議会が採択され、知事は県民の立場で同意を白紙に戻すことを表明してほしい」と求めた。【福垣栄生】

## 徳山ダム導水路

**同意撤回、知事に要請**  
市民団体 県議会に2万3000人署名  
市民団体「長良川に徳山ダムの水は要らない」市民学舎実行委員会(粕谷志郎代表)は24日、徳山ダムの水を木曾川下流域へ送る導水路建設計画について、建設同意撤回を県議会に要請する。署名集めを古田知事に提出した。また玉田和浩県会議長に、県議会での撤回の採択を求める約2万3000人分の請願書を送った。

中部地域で3県と名古屋市で構成する導水路検討会は昨年8月、揖斐川から木曾川へ直接水を流す上流ルートに加え、一部を長良川経由で木曾川に送る併設ルートを建設する案で合意している。これに対し、実行委員は合意撤回を求める請願書を集めており、実行委員会による2万人分を超えた。



2万人超える署名を待せ、導水路の問題点を指摘する粕谷代表(右)ら

08.09.09 朝日新聞

08.09.25 岐阜新聞

**県の合意撤回求め請願**  
反対住民、県議会に提出

08.09.25 毎日新聞

